

床下換気口を閉めていませんか？

床下結露が起き、カビ・腐朽菌が発生する恐れがあります

この冬、床下の不具合調査がとて多かったように思います。いちばん多かったのが、床下換気口を閉めた結果起きる換気不良です。次が、外断熱工法による床下湿気の排出不良です。そして、配水管の漏水事故です。この結果、床下の湿度が急上昇しカビと腐朽菌が発生しています。カビや腐朽菌が大量に発生すれば木材は腐ってしまいます。重症になれば床板がふやけてしまい、床が落ちることもあります。

驚いたことに、業者が「冬は、床下換気口を閉めてください」と指示していた例がありました。専門家に言われれば、誰でもそう思います。その後、何人かの技術者と話をする機会がありましたが、かなり多くの技術者が、床下換気口の原理原則を理解していませんでした。

外断熱工法による基礎についても、一部の業者が理解していませんでした。外断熱工法では床下換気口を設けません。基礎断熱工法の最大の注意点は床下の湿気対策です。基礎は、コンクリート打設後十分に乾燥させる必要があります。また、基礎の防湿対策、断熱対策を入念に行うことが不可欠です。また、床下の湿気を排気する手段が必要になります。湿気の排出を怠っている場合が多く、その結果、基礎断熱工法の場合は床下に結露を発生させる可能性が高くなっています。

床下の配水管の接続部分の緩みからくる漏水も目立ちました。その多くは配管の固定金具が適切に配置されていないことにあります。配水管はお湯や水が勢いよく流れることで常に動きまわります。配管の固定が適切でないと、長い間に緩みが生じることになります。

冬に床下換気口を閉めるのは、断熱材がない時代の話です

「冬は床下換気口を閉める」という言葉は、とても説得力がありますね。冷たい空気が床下に入るのを防ぐことは当然なことだと思います。建築技術者でも多くの方がそう理解しているのですから、一般消費者がそう思うのは当然です。

床下に断熱材を敷き詰めているのは、床下の冷気が室内に伝わるのを遮断するためです。土台などの木材にとって大敵は湿気と水分です。木材は湿気によって簡単に腐ります。床下換気口は、床下の湿気を排出するための大切な機能を持っています。このシステムは、木造住宅の土台となるととても大事な原理原則です。